

事務事業評価シート(総括表)

事務事業	06	骨粗しょう症予防検診					
章	1	健康でおもいやりのあるまち					
大項目	01	心と体の健康づくり					
施策	01	生涯を通じた心と体の健康づくり					
事業内容							
目的	骨粗しょう症を早期に発見し、早期から予防を推進するために、骨粗しょう症検診を実施し、その結果を踏まえた指導を行うことを目的としています。						
対象・手段	20歳以上の区民 生活習慣病予防健診時・骨粗しょう症予防検診(単独) 40歳以上の区民 健康教育事業実施時 1歳6か月児の母親 1歳6か月児健診時						
成果(事業が意図する成果)							
「高齢者保健福祉施策調査報告書」(平成17年3月)によると、寝たきりの原因の17.1%は骨粗しょう症等に起因しています。骨粗しょう症の予防は生活の質(QOL)の向上及び高齢期における健康寿命の延伸に寄与します。							
事業成果指標							
指標名		定義			目標水準		
骨粗しょう症予防検診受診者数の増加		骨粗しょう症検診受診者数 / 平成15年設定の目標人数			(平成19年度に 100%の水準達成)		
成壮年期の骨粗しょう症予防検診受診率の増加		60歳未満の女性の受診者数 / 骨粗しょう症検診全体の女性の受診者数			(平成19年度に 90%の水準達成)		
生活習慣病予防健診の女性受診者と1歳6か月児健診受診者の母親の骨粗しょう症検診受診率の増加		生活習慣病予防健診と1歳6か月の骨粗しょう症検診女性受診者数 / 生活習慣病予防健診の女性受診者と1歳6か月健診の母親の数			(平成19年度に 90%の水準達成)		
成果の達成状況							
	単 位	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	備 考	
事業 成果 指標	目標値1	%	100.00	100.00	100.00	100.00	目標 3,780人 実績 3,003人
	実績1	%	63.89	78.94	76.46	79.44	
	= /	%	63.89	78.94	76.46	79.44	
	目標値2	%	90.00	90.00	90.00	90.00	目標 2,387人 実績 2,063人
	実績2	%	92.78	80.56	83.02	77.79	
	= /	%	103.09	89.51	92.24	86.43	
	目標値3	%	90.00	90.00	90.00	90.00	目標 2,477人 実績 1,909人
	実績3	%	74.97	71.42	67.06	69.34	
	= /	%	83.30	79.36	74.51	77.04	
事業の実施内容							
平成18年度	生活習慣病予防健診受診者の男女(希望者) 1 2 7 7 名 1歳6か月児健診の母親(希望者) 9 1 9 名 健康教育事業の骨粗しょう症予防教室参加者 1 1 2 名 骨粗しょう症予防検診(単独)受診者 5 8 2 名 (合計) 2 8 9 0 名						
平成19年度	生活習慣病予防健診受診者の男女(希望者) 1 2 5 7 名 1歳6か月児健診の母親(希望者) 9 5 0 名 健康教育事業の骨粗しょう症予防教室参加者 9 1 名 骨粗しょう症予防検診(単独)受診者 7 0 5 名 (合計) 3 0 0 3 名						

部名称		健康部		課名称		西新宿保健センター	
		単 位	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	備 考
トータルコスト	事業費	千円	2,650	3,597	4,131	4,299	
	人件費	千円	3,394	6,730	6,724	6,706	
	事務費	千円	172	122	179	272	
	減価償却費等	千円	0	0	0	0	
	総計 = + + +	千円	6,216	10,449	11,034	11,277	
	受益者負担	千円	641	733	737	729	
	純計 = -	千円	5,575	9,716	10,297	10,548	
	受益者負担率 /	%	10.31	7.02	6.68	6.46	
財源内訳	一般財源 = -	千円	4,906	8,712	9,341	9,500	
	特定財源		669	1,004	956	1,048	
	一般財源投入率 /	%	78.93	83.38	84.66	84.24	
職員	常勤職員	人	0.37	0.77	0.77	0.77	
	非常勤職員		0.13	0.13	0.13	0.13	
事業に関する検討課題							
<p>寝たきりを防ぐには、若年層の方、特に女性が骨粗しょう症を予防する日常生活習慣を確立することがもっとも効果的ですが、この年齢層の骨粗しょう症への関心はまだ十分ではありません。若年層の女性に対して検診の受診勧奨と日常生活習慣改善指導を積極的に進める必要があります。</p> <p>また、事業効果の高い更年期前の女性を含めた受診者数が伸び悩んでいるため、平成20年度からの新たな骨粗しょう症検診体制の中で受診者の増加を図っていく必要があります。</p>							
評価基準に基づく評価と理由	達成度	2	検診対象者の拡大を図ってきた結果、受診者総数は増加して、目標の約80%に達しました。60歳未満の女性の受診者の割合は目標の90%前後で推移していますが、1歳6か月児の母親の受診が着実に増加しています。				
	実施の成果	2	過去3年間に受診結果に基づき、約2700人に保健栄養相談を実施し、また、約100人に医療機関受診の勧奨を行いました。それにより受診者の日常生活習慣の改善などを促すことができました。				
	効率性	2	既存の健診の中に取り込んでの検診は費用対効果の面で効率的に実施していますが、対象を検診の必要性が高い方に重点を置くことで効率化を図る余地は残っています。				
	行政の関与	3	骨密度測定をできる医療機関に限られること、また、検診で受診者の状態に合わせた、きめ細やかな生活習慣改善の指導ができることから、区が受診者に一部自己負担を求めたうえで実施することは妥当です。				
	妥当性	2	骨密度測定と保健・栄養相談により生活習慣の改善指導を実施しており、効率的な手法と言えます。目標設定は後期基本計画の「健康寿命の延伸」から見て妥当です。なお、対象については、更に事業効果の高い層に絞り込むなどの改善をする余地が残っています。				
	施策寄与度	3	成壮年期から生活習慣の改善を促すことで、寝たきり状態になるのを予防する効果をあげています。過去3年間の受診者は約9千人にのぼり、健康増進のための施策に寄与しています。				
総合評価	<p>検診結果に基づき実施する保健栄養相談により、生活習慣改善の必要性への理解が受診者に定着してきていますが、平成20年度から、「特定健診」の開始により検診体制の見直し求められていることから、「C」と評価します。</p> <p>また、過去3年間では各成果指標とも概ね計画どおりの実績をあげており、「B」と評価します。</p>						C 過年度評価 18年度 C 17年度 B 16年度 A 15年度 方向性
	改革方針	<p>本事業は、今後とも継続的に実施していく必要があり、経常事業の「骨粗しょう症予防検診」として引き続き実施していきます。</p> <p>平成20年度から実施される「特定健診」と同時に行うことで効率的に実施します。また、事業の効果の高い更年期前の女性に対し、意識啓発を主眼とした検診として、従来の1歳6か月健診の母親に加え、3歳児健診の母親にも拡大します。さらに、予防を主眼とした検診として、40歳から60歳までの区民に対し、節目(5歳刻み)に個別通知する等検診実施率の向上を図ります。</p>					